

Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル

SPARC Enterprise T5440 サーバ





Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル SPARC Enterprise™ T5440 サーバ

本書には、富士通株式会社により提供および修正された技術情報が含まれています。

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフロント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および / または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、一般ユーザーからのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun™、Sun Microsystems™、Sun のロゴ®、Java™、Netra™、Solaris™、Sun StorageTek™、docs.sun.comSM、OpenBoot™、SunVTS™、SunSolveSM、CoolThreads™、J2EE™ および Sun Fire™ は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. またはその子会社の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

SSH は、米国およびその他の特定の管轄区域における SSH Communications Security の登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限りです。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のものも第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。

原典： Integrated Lights Out Manager 2.0 Supplement for SPARC Enterprise T5440 Server

Manual Code: C120-E513-02EN



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. SPARC Enterprise T5440 サーバ用 ILOM 1

ILOM の理解 1

プラットフォーム固有の ILOM 機能 1

SPARC Enterprise サーバでサポートされていない ILOM 機能 2

2. ホストの管理 3

ホストのリセット 4

ホストの起動モードの管理 4

起動モード 5

- ▼ CLI を使用してホストの起動モードの LDom s 構成を管理する 5
- ▼ CLI を使用してホストの起動モードのスクリプトを管理する 6
- ▼ CLI を使用してホストのリセット時の起動モードの動作を変更する 6
- ▼ CLI を使用してホストの起動モードの有効期限を表示する 7
- ▼ ウェブインターフェースを使用して起動モードの構成設定を変更する 7

ホスト情報の表示およびエラー条件に関するシステムポリシーの設定 8

- ▼ CLI を使用してホストの MAC アドレスを表示する 9
- ▼ CLI を使用してホストの OpenBoot のバージョンを表示する 9
- ▼ CLI を使用してホストの POST のバージョンを表示する 9

- ▼ CLIを使用してウォッチドッグタイマーが期限切れになったときのホストの動作を指定する 10
- ▼ CLIを使用して診断中にエラーが検出された場合のホストの動作を指定する 10
- ▼ ウェブインターフェースを使用してホスト情報を表示する 10

ホスト診断の管理 11

- ▼ CLIを使用して診断モードを変更する 12
- ▼ CLIを使用して診断トリガーの条件を指定する 12
- ▼ CLIを使用して診断のレベルを指定する 13
- ▼ CLIを使用して診断出力の冗長性の量を選択する 13
- ▼ ウェブインターフェースを使用して診断設定を管理する 14

システムユーザの対話の管理 15

- ▼ CLIを使用してブレイク信号の送信または強制的なコアダンプの実行を有効にする 15
- ▼ CLIを使用してホストの状態情報を表示する 15

入出力パスの最適化 16

- 入出力パスの再構成 16
- ▼ CLIを使用して入出力パスの再構成設定を管理する 17

3. サービスプロセッサの管理 19

顧客情報の格納 20

- ▼ CLIを使用して顧客の FRU データを変更する 20
- ▼ CLIを使用してシステム識別情報を変更する 21
- ▼ ウェブインターフェースを使用して顧客の識別情報を変更する 21

出荷時のデフォルトへのサービスプロセッサ設定の変更 22

- ▼ CLIを使用してサービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトにリセットする 22
- ▼ ウェブインターフェースを使用してサービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトにリセットする 22

コンソールのエスケープ文字の変更 23

- ▼ CLIを使用してコンソールのエスケープ文字を変更する 23

構成ポリシーの設定の変更 24

- ▼ CLI を使用してユーザーデータベースのバックアップを指定する 24
- ▼ CLI を使用してホストの電源投入ポリシーを指定する 25
- ▼ CLI を使用して電源投入の遅延を使用不可または再度使用可能にする 26
- ▼ ウェブインターフェースを使用して構成ポリシーの設定を管理する 26

電源管理メトリックスの表示 27

- ▼ CLI を使用して電源管理プロパティを表示する 27
- ▼ システムの総消費電力を表示する 28
- ▼ ウェブインターフェースを使用して電源管理プロパティを表示する 29

ネットワークアクセスの管理 29

- ▼ CLI を使用して SP へのネットワークアクセスを使用不可または再度使用可能にする 29
- ▼ DHCP サーバの IP アドレスを表示する 30

SSH サーバの設定の管理 31

- ▼ CLI を使用して SSH 鍵のタイプを変更する 31
- ▼ CLI を使用して新しい SSH 鍵セットを生成する 31
- ▼ CLI を使用して SSH サーバを再起動する 31
- ▼ CLI を使用して SSH サービスを使用可能または使用不可にする 32
- ▼ ウェブインターフェースを使用して SSH サーバの設定を管理する 32

4. 仮想キースイッチの設定の管理 35

- ▼ CLI を使用して仮想キースイッチを制御する 35
- ▼ ウェブインターフェースを使用して仮想キースイッチを制御する 36

5. IPMI センサーのリファレンス 37

SPARC Enterprise T5440 サーバのセンサー 38

SPARC Enterprise T5440 サーバのインジケータ 39

6. ALOM CMT 互換シェル	41
ILOM ネットワーク構成プロパティの確定	41
▼ ALOM CMT 互換シェルを作成する	42
ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較	44
7. ALOM 互換シェルで使用できるイベントメッセージ	53
イベントメッセージの概要	53
イベントの重要度レベル	54
サービスプロセッサの使用状況イベントメッセージ	55
環境監視イベントメッセージ	58
ホスト監視イベントメッセージ	62

はじめに

このマニュアルでは、Integrated Lights Out Manager (ILOM) のサービスプロセッサ (SP) に関する情報について説明します。SP を使用すると、サーバを遠隔で管理できます。このマニュアルは、UNIX[®] コマンドについての知識と経験が豊富なシステム管理者を対象としています。

安全な使用のために

このマニュアルには当製品を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。当製品を使用する前に、このマニュアルを熟読してください。また、このマニュアルは大切に保管してください。

富士通は、使用者および周囲の方の身体や財産に被害を及ぼすことなく安全に使っていただくために細心の注意を払っています。本製品を使用する際は、マニュアルの説明に従ってください。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次の章で構成されています。

- **第1章** SPARC Enterprise T5440 サーバ用 ILOM
Integrated Lights Out Manager (ILOM) の概要について説明します。
- **第2章** ホストの管理
ホストの SPARC 固有の機能の管理について説明します。
- **第3章** サービスプロセッサの管理
SP の SPARC 固有の機能の管理について説明します。
- **第4章** 仮想キースイッチの設定の管理
システムデバイスの SPARC 固有の機能の管理について説明します。
- **第5章** IPMI センサーのリファレンス
IPMI センサーデータ (/SYS 名前空間) を示します。
- **第6章** ALOM CMT 互換シェル
ILOM のコマンドとプロパティに対応する ALOM CMT 互換シェルのコマンドとプロパティのリストを示し、説明します。
- **第7章** ALOM 互換シェルで使用できるイベントメッセージ
イベントメッセージに関する情報を示します。

関連マニュアル

SPARC Enterprise™ シリーズのすべてのマニュアルは、次のウェブサイトで最新版を提供しています。

国内

(<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>)

海外

(<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>)

タイトル	説明	コード
SPARC Enterprise T5440サーバ はじめにお読みください	サーバの初回電源投入および起動のために 必要な簡易手順	C120-E504
SPARC Enterprise T5440サーバ プロダクトノート	製品の更新および問題に関する最新情報	C120-E508
Important Safety Information for Hardware Systems	SPARC Enterpriseシリーズのすべてのサー バに共通する安全性に関する情報	C120-E391
SPARC Enterprise T5440サーバ 安全に使用していただくために	このサーバの安全性および適合性に関する 情報	C120-E509
SPARC Enterprise/ PRIMEQUEST共通 設置計画マ ニュアル	SPARC Enterprise およびPRIMEQUEST を 設置するための、設置計画および設備計画 に必要な事項や考え方	C120-H007
SPARC Enterprise T5440サーバ 設置計画マニュアル	設置計画に関するサーバの仕様	C120-H029
SPARC Enterprise T5440 サーバ インストール・セットア ップガイド	ラック搭載、ケーブル配線、電源投入、お よび構成に関する詳細情報	C120-E510
SPARC Enterprise T5440サーバ サービスマニュアル	診断を実行してサーバの障害追跡を行う方 法、およびサーバの部品を取り外して交換 する方法	C120-E512
SPARC Enterprise T5440サーバ アドミニストレーションガイド	サーバ固有の管理作業の実行方法	C120-E511
PCI ボックス インストールシ ョン・サービスマニュアル	PCI ボックスを SPARC Enterprise T5120/T5140/T5220/T5240/T5440 サーバ に設置する手順	C120-E543
PCI ボックス プロダクトノート	PCIボックスに関する重要な最新情報	C120-E544

ILOMで管理されるすべてのプラットフォームに共通するILOM機能の使用方法については、次のドキュメントを参照してください。

タイトル	説明	コード
Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド	ILOM 2.0の特徴および機能に関する情報	C120-E474
Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル SPARC Enterprise T5440サーバ	このサーバで ILOM 2.0ソフトウェアを使用する方法	C120-E513

ホストサーバを使用して作業する方法については、次のドキュメントを参照してください。ILOM関連のいくつかのタスクの実行方法に関する情報が記載されています。

タイトル	説明
SunVTS User's Guide	診断テストの実行
SunVTS Test Reference Manual	
SunVTS Quick Reference Guide	
Sun Management Center Software User's Guide	
Solaris System Administrator Guide	システムおよびネットワークの管理
SPARC: Installing Solaris Software	
Solaris User's Guide	オペレーティングシステムの使用

UNIX コマンドについて

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX[®] コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris[™] オペレーティングシステムのマニュアル (<http://docs.sun.com>)

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine-name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#
ILOM のサービスプロセッサ	->
ALOM 互換シェル	sc >
OpenBoot™ PROM ファームウェア	ok

ご意見をお寄せください

本書に関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を下記URLの『お問い合わせ』から送付してください。

SPARC Enterpriseマニュアルのサイト

(<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>)

第 1 章

SPARC Enterprise T5440 サーバ用 ILOM

この章では、SPARC Enterprise T5440 サーバ用の ILOM について紹介します。また、より包括的な ILOM のドキュメントの参照先も示します。

- 「ILOM の理解」 (P.1)
- 「プラットフォーム固有の ILOM 機能」 (P.1)
- 「SPARC Enterprise サーバでサポートされていない ILOM 機能」 (P.2)

ILOM の理解

Integrated Lights Out Manager (ILOM) はシステム管理ファームウェアで、一部の SPARC サーバにプリインストールされています。ILOM を使用すると、サーバにインストールされたコンポーネントをアクティブに管理および監視できます。ILOM には、SNMP および IPMI インターフェースだけでなく、ブラウザベースのウェブインターフェースおよびコマンド行インターフェースが用意されています。ILOM に関する一般的な情報については、次のドキュメントを参照してください。

- 『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』
- 『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド (補足)』

プラットフォーム固有の ILOM 機能

ILOM は多くのプラットフォーム上で動作し、すべてのプラットフォームに共通する機能をサポートしています。ILOM 機能の中には、すべてのプラットフォームではなく一部のプラットフォームでのみ使用できるものがあります。このマニュアルでは、

SPARC Enterprise T5440 サーバ用の ILOM 機能について説明しています。共通の ILOM 機能については、『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。

SPARC Enterprise サーバでサポートされていない ILOM 機能

ほかのプラットフォームでサポートされている ILOM 機能の中で、次の機能は SPARC Enterprise T5440 サーバの ILOM ではサポートされていません。

- ウェブインターフェースを介した ILOM リモートコンソール。

注 - リモートコンソールにアクセスするには、ILOM CLI から `start /SP/console` コマンドを使用するか、ALOM 互換シェルを介して `sc> console` コマンドを使用します。

- シングルサインオンなどの、シャーシ監視モジュール (CMM) 機能

第 2 章

ホストの管理

この章では、ほかのプラットフォーム上の ILOM と共通する一連のプロパティに追加された、SPARC Enterprise T5440 サーバ用の ILOM 機能について説明します。この章では、特に /HOST 名前空間のプロパティについて説明します。この章は、次の節で構成されています。

説明	作業
ホストの新しいリセット動作を理解します。	「ホストのリセット」(P.4)
ホストの起動モードを管理します。	「CLI を使用してホストの起動モードの LDoms 構成を管理する」(P.5) 「CLI を使用してホストの起動モードのスクリプトを管理する」(P.6) 「CLI を使用してホストのリセット時の起動モードの動作を変更する」(P.6) 「CLI を使用してホストの起動モードの有効期限を表示する」(P.7) 「ウェブインターフェースを使用して起動モードの構成設定を変更する」(P.7)
ホストの情報を表示し、エラー状況に関するシステムポリシーを設定します。	「CLI を使用してホストの MAC アドレスを表示する」(P.9) 「CLI を使用してホストの OpenBoot のバージョンを表示する」(P.9) 「CLI を使用してホストの POST のバージョンを表示する」(P.9) 「CLI を使用してウォッチドッグタイマーが期限切れになったときのホストの動作を指定する」(P.10) 「CLI を使用して診断中にエラーが検出された場合のホストの動作を指定する」(P.10) 「ウェブインターフェースを使用してホスト情報を表示する」(P.10)

説明	作業
ホスト診断を管理します。	<ul style="list-style-type: none"> 「CLI を使用して診断モードを変更する」 (P.12) 「CLI を使用して診断トリガーの条件を指定する」 (P.12) 「CLI を使用して診断のレベルを指定する」 (P.13) 「CLI を使用して診断出力の冗長性の量を選択する」 (P.13) 「ウェブインターフェースを使用して診断設定を管理する」 (P.14)
システムユーザーの対話を管理します。	<ul style="list-style-type: none"> 「CLI を使用してブレイク信号の送信または強制的なコアダンプの実行を有効にする」 (P.15) 「CLI を使用してホストの状態情報を表示する」 (P.15)
入出力パスを最適化します	<ul style="list-style-type: none"> 「入出力パスの再構成」 (P.16) 「CLI を使用して入出力パスの再構成設定を管理する」 (P.17)

ホストのリセット

ホストのリセット動作は、ドメインの追加機能をサポートするように変更されました。reset コマンドによって、ホストの正常なハードウェアリセットまたは強制的なハードウェアリセットが生成されることは従来どおりですが、制御ドメインを管理するための追加オプションが提供されるようになりました。ILOM CLI と ALOM 互換 CLI の両方で使用できるオプションについては、[i\ 6-4](#) を参照してください。

ホストの起動モードの管理

ILOM が起動をどのように処理するかを指定するには、起動モードのプロパティを使用します。

- 「起動モード」 (P.5)
- 「CLI を使用してホストの起動モードの LDoms 構成を管理する」 (P.5)
- 「CLI を使用してホストの起動モードのスクリプトを管理する」 (P.6)
- 「CLI を使用してホストのリセット時の起動モードの動作を変更する」 (P.6)
- 「CLI を使用してホストの起動モードの有効期限を表示する」 (P.7)
- 「ウェブインターフェースを使用して起動モードの構成設定を変更する」 (P.7)

起動モード

起動モード (bootmode) プロパティを使用すると、サーバが起動時に使用するデフォルトの方法を上書きできます。この機能は、スクリプトまたは類似のタスクを使用して OpenBoot™ 変数を設定することで、特定の OpenBoot 設定または LDom 設定を上書きする場合に便利です。

たとえば、bootmode state プロパティを reset_nvram に設定して、サーバを出荷時のデフォルトの OpenBoot 設定にリセットすることができます。

保守作業員から、問題の解決に bootmode script プロパティを使用するように指示される場合があります。完全なスクリプトには、主にデバッグ用に用意されている、マニュアルには記載されていない機能があります。

bootmode は、OpenBoot 設定または LDom 設定に関する問題を修正するために使用されることを目的としているため、bootmode はシングルブートでのみ有効です。また、管理者が bootmode state プロパティを設定したまま忘れることを防止するため、bootmode state プロパティが設定されてから 10 分以内にホストがリセットされないと、bootmode state プロパティが期限切れになります。

▼ CLI を使用してホストの起動モードの LDom 構成を管理する

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /HOST/bootmode config=configname
```

config プロパティには、Logical Domains ソフトウェアを使用して SP にダウンロードされた名前付き論理ドメイン構成などの configname 値を指定します。

たとえば、ldm-set1: という名前の論理ドメイン構成を作成した場合は、次のように指定します。

```
-> set /HOST/bootmode config=ldm-set1
```

起動モードの config を出荷時のデフォルト構成に戻すには、factory-default を指定します。

次に例を示します。

```
-> set /HOST/bootmode config=factory-default
```

▼ CLI を使用してホストの起動モードのスクリプトを管理する

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /HOST/bootmode script=value
```

この場合、`script` は、ホストサーバの OpenBoot PROM ファームウェアの起動方法を制御します。現在の `/HOST/bootmode` 設定には影響を与えません。`value` には、最大 64 バイトの長さまで指定できます。`/HOST/bootmode` 設定を指定して、同じコマンド内でスクリプトを設定できます。

次に例を示します。

```
-> set /HOST/bootmode state=reset_nvram script="setenv diag-switch? true"
```

サーバをリセットしたあとに OpenBoot PROM がスクリプトに格納されている値を読み取ると、OpenBoot PROM 変数 `diag-switch?` はユーザーが要求した値 `true` に設定されます。

注 - `/HOST/bootmode script=""` を設定すると、ILOM は `script` の値を空に設定します。`/HOST/bootmode config=""` を設定すると、ILOM は `config` の値を空に設定します。

▼ CLI を使用してホストのリセット時の起動モードの動作を変更する

`/HOST/bootmode state` プロパティは、OpenBoot の非揮発性ランダムアクセスメモリー (NVRAM) 変数の使用方法を制御します。通常、これらの変数の現在の設定が保持されます。`/HOST/bootmode state=reset_nvram` を設定すると、次のリセット時に OpenBoot NVRAM 変数がデフォルト設定に変更されます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /HOST/bootmode state=value
```

`value` は、次のいずれかの値です。

- `normal` - 次のリセット時に、現在の NVRAM 変数の設定を保持します。
- `reset_nvram` - 次のリセット時に、OpenBoot 変数をデフォルト設定に戻します。

注 - 次にサーバをリセットしたあと、または 10 分後 (「[CLI を使用してホストの起動モードの有効期限を表示する](#)」(P.7) の `expires` プロパティを参照) に、`state=reset_nvram` コマンドは `normal` に戻ります。`config` プロパティおよび `script` プロパティが期限切れになることはなく、次にサーバをリセットしたとき、または手動で `string` を "" に設定したときにクリアされます。

▼ CLI を使用してホストの起動モードの有効期限を表示する

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> show /HOST/bootmode expires
    Properties:
        expires = Thu Oct 18 18:24:16 2007
```

`expires` は、現在の起動モードが期限切れになる日時です。

▼ ウェブインターフェースを使用して起動モードの構成設定を変更する

ILOM では、サーバのファームウェア環境を構成するいくつかの方法を提供します。起動モードの構成には、次の 4 つの要素があります。

- 状態
 - 有効期限
 - スクリプト
 - LDom 構成
1. ILOM ウェブインターフェースに管理者 (`root`) としてログインし、ウェブインターフェースを表示します。
 2. 「Remote Control」->「Boot Mode Settings」を選択します。

表示される「Boot Mode」ページ。

3. 必要に応じて、「Boot Mode」の「State」を選択します。
4. 「Expiration Date」が表示されます。
5. 必要に応じて、起動スクリプトを指定します。
6. 必要に応じて、LDoms 構成ファイルを指定します。
7. 「Save」をクリックします。

ホスト情報の表示およびエラー条件に関するシステムポリシーの設定

システム構成およびファームウェアのバージョン情報を表示するには、ホスト情報プロパティを使用します。

- 「CLI を使用してホストの MAC アドレスを表示する」(P.9)
- 「CLI を使用してホストの OpenBoot のバージョンを表示する」(P.9)
- 「CLI を使用してホストの POST のバージョンを表示する」(P.9)
- 「CLI を使用してウォッチドッグタイマーが期限切れになったときのホストの動作を指定する」(P.10)
- 「CLI を使用して診断中にエラーが検出された場合のホストの動作を指定する」(P.10)
- 「ウェブインターフェースを使用してホスト情報を表示する」(P.10)

▼ CLI を使用してホストの MAC アドレスを表示する

/HOST macaddress プロパティは、システムソフトウェアによって自動的に構成されるため、設定または変更はできません。値はサーバの取り外し可能なシステム構成カード (SCC PROM) から読み取られて識別され、ILOM にプロパティとして格納されます。

/HOST macaddress は、net0 ポートの MAC アドレスです。各追加ポートの MAC アドレスは、/HOST macaddress から増分されます。たとえば、net1 は /HOST macaddress に 1 を追加した値と同じです。

- このプロパティの現在の設定を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /HOST macaddress
```

▼ CLI を使用してホストの OpenBoot のバージョンを表示する

/HOST obp_version プロパティを使用すると、ホストの OpenBoot のバージョンに関する情報が表示されます。

- このプロパティの現在の設定を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /HOST obp_version
```

▼ CLI を使用してホストの POST のバージョンを表示する

/HOST post_version プロパティを使用すると、ホストの POST のバージョンに関する情報が表示されます。

- このプロパティの現在の設定を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /HOST post_version
```

▼ CLI を使用してウォッチドッグタイマーが期限切れになったときのホストの動作を指定する

/HOST autorestart プロパティを使用すると、ILOM が Solaris ウォッチドッグタイマーの期限切れをどのように処理するかを指定できます。

- このプロパティを設定するには、次のように入力します。

```
-> set /HOST autorestart=value
```

value には、次の値を設定できます。

- none – ILOM は、警告を発行する以外、何の処理も行いません。
- reset – ILOM は、Solaris ウォッチドッグタイマーが期限切れになると、システムのリセットを試みます (デフォルト)。
- dumpcore – ILOM は、ウォッチドッグタイマーが期限切れになると、OS のコアダンプを強制的に試みます。

▼ CLI を使用して診断中にエラーが検出された場合のホストの動作を指定する

/HOST autorunonerror プロパティを使用すると、システム診断によるエラーの検出後、ホストが起動を続行するかどうかを指定できます。

- このプロパティを設定するには、次のように入力します。

```
-> set /HOST autorunonerror=value
```

value は、次のいずれかの値です。

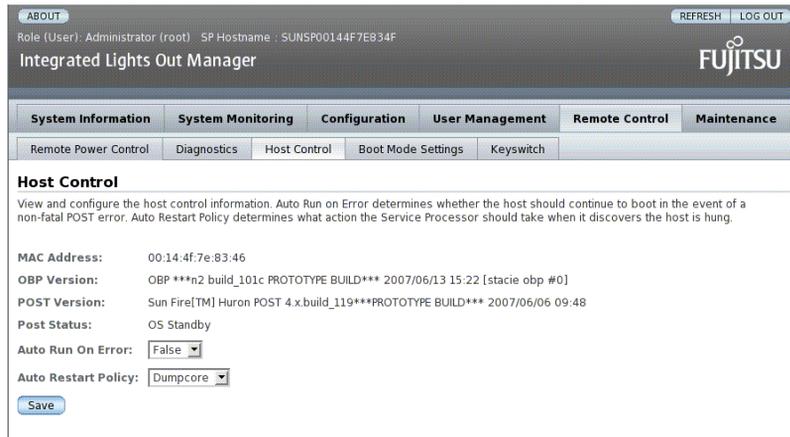
- false – エラーの検出後、システムは起動を中止します (デフォルト)。
- true – エラーの検出後、システムは起動の続行を試みます。

▼ ウェブインターフェースを使用してホスト情報を表示する

この手順では、さまざまな種類のホスト情報を表示および構成する方法について説明します。

ILOM では、ホスト制御機能を表示または構成するいくつかの方法を提供します。ホスト制御には、次の 6 つの要素があります。

- MAC アドレス
 - OpenBoot のバージョン
 - POST のバージョン
 - HOST の状態
 - エラー時の自動実行
 - 自動再起動ポリシー
1. ILOM ウェブインターフェイスに管理者 (root) としてログインし、ウェブインターフェイスを表示します。
 2. 「Remote Control」 -> 「Host Control」 を選択します。



表示される「Host Control」ページ。

3. MAC アドレスが表示されます。
4. OpenBoot のバージョンが表示されます。
5. POST のバージョンが表示されます。
6. 必要に応じて、「Auto Run On Error」の値を選択します。
7. 必要に応じて、「Auto Restart Policy」の値を選択します。
8. 「Save」をクリックします。

ホスト診断の管理

ILOM がホストサーバの診断をどのように制御するかを指定するには、診断制御プロパティを使用します。

ILOM は、次の診断システムインターフェースプロパティを使用します。

- 「CLI を使用して診断モードを変更する」 (P.12)
- 「CLI を使用して診断トリガーの条件を指定する」 (P.12)
- 「CLI を使用して診断のレベルを指定する」 (P.13)
- 「CLI を使用して診断出力の冗長性の量を選択する」 (P.13)
- 「ウェブインターフェースを使用して診断設定を管理する」 (P.14)

▼ CLI を使用して診断モードを変更する

`/HOST/diag mode` プロパティを使用すると、診断を使用可能にするかどうかを制御し、使用可能にする診断モードを指定できます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /HOST/diag mode=value
```

value は、次のいずれかの値です。

- `off` – どのような診断も実行しません。
- `normal` – 診断を実行します (デフォルト値)。
- `service` – 保守技術者による診断を実行します。これは、`/HOST/diag trigger=all-resets`、`/HOST/diag verbosity`、および `/HOST/diag level=max` の事前設定値を使用する場合と同等の機能です。`/HOST/diag mode=service` を設定すると、`set /SYS keyswitch_state=diag` コマンドを実行した場合と同じ処理が行われます。

▼ CLI を使用して診断トリガーの条件を指定する

`/HOST/diag trigger` プロパティを使用すると、診断が使用可能な場合に POST が実行される条件を制御できます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /HOST/diag trigger=value
```

value には、次のいずれかの値、またはその組み合わせを引用符で囲んで指定します。

- `user-reset` – システムのリセット時に診断を実行します。
- `error-reset` – システムをリセットして回復する必要がある致命的エラーが発生した場合に診断を実行します。
- `power-on-reset` – システムの電源投入時に診断を実行します。

- `all-resets` – どのようなサーバリセットでも診断を実行します。
- `none` – 診断をスキップします。

次に例を示します。

```
-> set /HOST/diag trigger="user-reset power-on-reset"  
-> show /HOST/diag trigger  
user-reset power-on-reset
```

デフォルト値は、`power-on-reset` と `error-reset` の組み合わせです。

▼ CLI を使用して診断のレベルを指定する

`/HOST/diag level` プロパティを使用すると、診断が使用可能な場合に実行される診断テストのレベルを指定できます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /HOST/diag level=value
```

value は、次のいずれかの値です。

- `min` – 最小レベルの診断を実行してシステムを検証します。
- `max` – 最大設定の診断を実行してシステムの健全性を完全に検証します (デフォルト値)。

▼ CLI を使用して診断出力の冗長性の量を選択する

診断が使用可能な場合は、`/HOST/diag verbosity` プロパティを使用すると、POST 診断からの出力の冗長性レベルを指定できます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /HOST/diag verbosity=value
```

value は、次のいずれかの値です。

- `none` – 障害が検出されないかぎり、診断の実行時にシステムコンソールには出力が表示されません。
- `min` – 診断で、制限された量の出力がシステムコンソールに表示されます。
- `normal` – 診断で、適度な量の出力がシステムコンソールに表示されます (デフォルト値)。

- max – 診断で、実行されている各テストの名前と結果を含む完全な出力がシステムコンソールに表示されます。
- debug – 診断で、テストされているデバイスと各テストのデバッグ出力を含む広範囲なデバッグの出力がシステムコンソールに表示されます。

▼ ウェブインターフェースを使用して診断設定を管理する

ILOM では、診断を表示または構成するいくつかの方法を提供します。ホスト制御には、次の 4 つの要素があります。

- トリガー
- 冗長性
- レベル
- モード

1. ILOM ウェブインターフェースに管理者 (root) としてログインし、ウェブインターフェースを表示します。
2. 「Remote Control」->「Diagnostics」を選択します。

ABOUT REFRESH LOG OUT

Role (User): Administrator (root) SP Hostname : SUNSP00144F7E834F

Integrated Lights Out Manager FUJITSU

System Information System Monitoring Configuration User Management **Remote Control** Maintenance

Remote Power Control Diagnostics Host Control Boot Mode Settings Keyswitch

Diagnostics

Select the level of embedded diagnostics to run on the host during start up. The Trigger contains all possible states to cause diagnostics to be run. The Verbosity level will define how much information will be given. The Update Mode contains all the possible OPS modes specified to POST.

Trigger:

Verbosity:

Level:

Current Mode:

Update Mode:

表示される「Diagnostics settings」ページ。

3. 必要に応じて、「Trigger」の値を選択します。
4. 必要に応じて、「Verbosity」の値を選択します。
5. 必要に応じて、「Level」の値を選択します。
6. 「Current Mode」が表示されます。
7. 必要に応じて、「Update Mode」の値を選択します。

システムユーザーの対話の管理

システムユーザープロパティを使用すると、ILOM によるホストサーバの識別方法およびホストサーバとの対話方法をカスタマイズできます。

- 「CLI を使用してブレイク信号の送信または強制的なコアダンプの実行を有効にする」 (P.15)
- 「CLI を使用してホストの状態情報を表示する」 (P.15)

▼ CLI を使用してブレイク信号の送信または強制的なコアダンプの実行を有効にする

set /HOST send_break_action コマンドを使用すると、OpenBoot PROM プロンプト (ok) に進むことを選択できるメニューがサーバで表示されます。kldb デバッガを設定している場合は、send_break_action=break を指定すると、サーバはデバッグモードになります。強制的なコアダンプを実行するには、send_break_action=dumpcore を指定します。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /HOST send_break_action=value
```

value は、次のいずれかの値です。

- break – ホストに切断を送信します。
- dumpcore – 管理対象のシステム OS のパニックコアダンプを強制的に行います。ただし、この動作はすべてのバージョンの OS でサポートされているとは限りません。

▼ CLI を使用してホストの状態情報を表示する

show /HOST status コマンドを使用すると、ホストサーバの状態に関する情報を表示できます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> show /HOST status
```

コマンドによって、次のような情報が返されます。

```
-> show /HOST status
  Properties:
    status = Running

  Commands:
    show ->
```

入出力パスの最適化

入出力パスを最適化すると、CMP 構成に基づくシステムパフォーマンスを最大限に向上させることができます。

- 「[入出力パスの再構成](#)」 (P.16)
- 「[CLI を使用して入出力パスの再構成設定を管理する](#)」 (P.17)

入出力パスの再構成

SPARC Enterprise T5440 には、ioreconfigure パラメータがあります。このパラメータを使用すると、SP がシステムハードウェアをチェックする頻度を制御し、必要な場合は入出力パスを再構成して、CMP 構成に基づくシステムパフォーマンスを最適化することができます。

ioreconfigure パラメータは、ILOM を介して設定され、次の 3 つの値があります。

パラメータ値	説明	注意
true	SP はホストに電源が投入されるたびに入出力バスを確認し、必要に応じて再構成します。	
false	SP は入出力バスを再構成しません。	ホストの最初の電源投入後は、これがデフォルト設定になっています。
nextboot	SP は、次にホストに電源が投入されたときに IP バスを再構成し、そのあとのパラメータを自動的に false にリセットします。	出荷時のシステムは、この設定になっています。また、CMP モジュールを追加または交換する場合にも役立ちます。

注 - 入出力バスの再構成によって、それまで CMP モジュールに関連付けられていた PCIe アドレスおよび外部アドレスが変更されます。これらのアドレスの管理方法については、『SPARC Enterprise T5440 サーバプロダクトノート』を参照してください。

詳細は、サーバのプロダクトノートを確認し、次を参照してください。

[「CLI を使用して入出力バスの再構成設定を管理する」\(P.17\)](#)

▼ CLI を使用して入出力バスの再構成設定を管理する

set /HOST ioreconfigure コマンドを使用すると、SP が入出力バスを再構成し最適化する条件を制御できます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /HOST/ioreconfigure=value
```

value は、次のいずれかの値です。

- true - SP は、ホストに電源が投入されるたびに入出力バスを確認し、必要に応じて再構成します。
- false - SP は入出力バスを再構成しません。
- nextboot - SP は、次にホストに電源が投入されたときに IP バスを再構成し、そのあとのパラメータを自動的に false にリセットします。

注 - 入出力パスの再構成によって、それまで CMP モジュールに関連付けられていた PCIe アドレスおよび外部アドレスが変更されます。これらのアドレスの管理方法については、『SPARC Enterprise T5440 サーバプロダクトノート』を参照してください。

第 3 章

サービスプロセッサの管理

この章では、ほかのプラットフォーム上の ILOM と共通する一連のプロパティに追加された、SPARC Enterprise T5440 サーバの ILOM プロパティについて説明します。この章では、特に /SP 名前空間のプロパティについて説明します。

説明	作業
顧客情報を格納します。	「CLI を使用して顧客の FRU データを変更する」 (P.20) 「CLI を使用してシステム識別情報を変更する」 (P.21) 「ウェブインターフェースを使用して顧客の識別情報を変更する」 (P.21)
サービスプロセッサの設定をデフォルトに変更します。	「CLI を使用してサービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトにリセットする」 (P.22) 「ウェブインターフェースを使用してサービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトにリセットする」 (P.22)
コンソールのエスケープ文字を変更します。	「CLI を使用してコンソールのエスケープ文字を変更する」 (P.23)
構成ポリシーの設定を変更します。	「CLI を使用してユーザーデータベースのバックアップを指定する」 (P.24) 「CLI を使用してホストの電源投入ポリシーを指定する」 (P.25) 「CLI を使用して電源投入の遅延を使用不可または再度使用可能にする」 (P.26) 「ウェブインターフェースを使用して構成ポリシーの設定を管理する」 (P.26)

説明	作業
電源管理メトリックスを表示します。	<ul style="list-style-type: none"> 「CLI を使用して電源管理プロパティを表示する」 (P.27) 「システムの総消費電力を表示する」 (P.28) 「ウェブインターフェースを使用して電源管理プロパティを表示する」 (P.29)
ネットワークアクセスを管理します。	<ul style="list-style-type: none"> 「CLI を使用して SP へのネットワークアクセスを使用不可または再度使用可能にする」 (P.29) 「DHCP サーバの IP アドレスを表示する」 (P.30)
SSH サーバの設定を管理します。	<ul style="list-style-type: none"> 「CLI を使用して SSH 鍵のタイプを変更する」 (P.31) 「CLI を使用して新しい SSH 鍵セットを生成する」 (P.31) 「CLI を使用して SSH サーバを再起動する」 (P.31) 「CLI を使用して SSH サービスを使用可能または使用不可にする」 (P.32) 「ウェブインターフェースを使用して SSH サーバの設定を管理する」 (P.32)

顧客情報の格納

この節では、インベントリ制御またはサイトの資源管理などを目的として、SP および FRU PROM に情報を格納できる ILOM 機能について説明します。

- 「CLI を使用して顧客の FRU データを変更する」 (P.20)
- 「CLI を使用してシステム識別情報を変更する」 (P.21)
- 「CLI を使用してシステム識別情報を変更する」 (P.21)

▼ CLI を使用して顧客の FRU データを変更する

/SP customer_frudata プロパティを使用すると、すべての FRU PROM に情報を格納できます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP customer_frudata="data"
```

注 - データ文字列 ("*data*") は、引用符で囲む必要があります。

▼ CLI を使用してシステム識別情報を変更する

/SP system_identifier プロパティを使用すると、顧客の識別情報を格納できます。

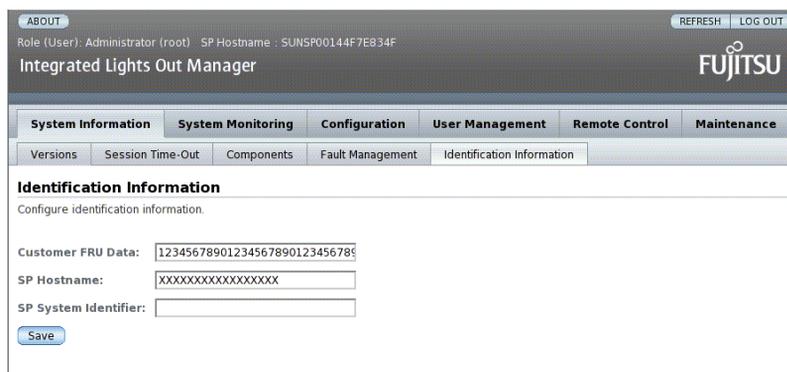
- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP system_identifier="data"
```

▼ ウェブインターフェースを使用して顧客の識別情報を変更する

ILOM は、FRU および SP に情報を格納できる機能を備えています。

1. ILOM ウェブインターフェースに管理者 (root) としてログインし、ウェブインターフェースを表示します。
2. 「System Information (システム情報)」-> 「Identification Information」を選択します。



The screenshot shows the Fujitsu ILOM web interface. At the top, it displays the user role as Administrator (root) and the SP Hostname as SUNSP00144F7E834F. The main navigation bar includes System Information, System Monitoring, Configuration, User Management, Remote Control, and Maintenance. Under System Information, the Identification Information tab is selected. The page title is 'Identification Information' and it instructs the user to 'Configure identification information.' There are three input fields: 'Customer FRU Data' with the value '12345678901234567890123456789', 'SP Hostname' with 'XXXXXXXXXXXXXXXXXX', and 'SP System Identifier' which is empty. A 'Save' button is located at the bottom left of the form area.

表示される「Identification Information」ページ。

3. 必要に応じて、「Customer FRU Data」フィールドを編集します。
4. 必要に応じて、「SP Hostname」を編集します。
5. 必要に応じて、「SP System Identifier」フィールドを編集します。
6. 「Save」をクリックします。

出荷時のデフォルトへのサービスプロセッサ設定の変更

この節では、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトに戻す方法について説明します。

- 「CLI を使用してサービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトにリセットする」 (P.22)
- 「ウェブインターフェースを使用してサービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトにリセットする」 (P.22)

▼ CLI を使用してサービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトにリセットする

`set /SP reset_to_defaults` コマンドを使用すると、すべての ILOM 構成プロパティを出荷時のデフォルト値に戻すことができます。all オプションを指定すると、ILOM 構成とすべてのユーザー情報が出荷時のデフォルト値に戻されます。

1. -> プロンプトで、次のように入力します。

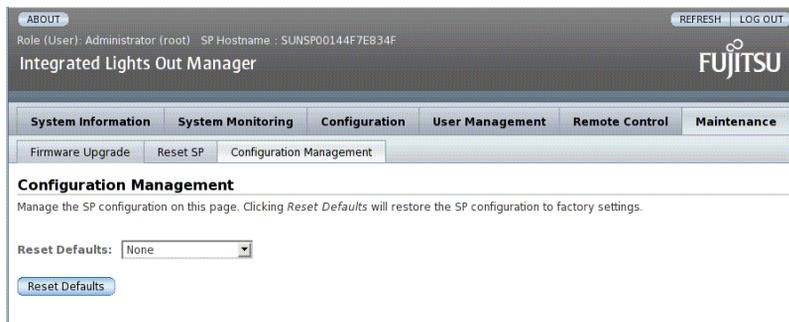
```
-> set /SP reset_to_defaults=all
```

`reset_to_defaults` は、次のいずれかに設定できます。

- none - 変更を行いません。
 - all - 次の SP リセット時に、ユーザーデータベースをクリアし、すべての構成プロパティをデフォルトに変更します。
2. 新しいプロパティ値が有効になるように、サービスプロセッサをリセットします。

▼ ウェブインターフェースを使用してサービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトにリセットする

1. ILOM ウェブインターフェースに管理者 (root) としてログインし、ウェブインターフェースを表示します。
2. 「Maintenance (保守)」 -> 「Configuration Management」 を選択します。



表示される「Configuration Management」ページ。

3. 「Reset Defaults」の値を選択します。
4. 「Reset Defaults」をクリックします。

コンソールのエスケープ文字の変更

この節では、エスケープ文字として使用する新しい文字の組み合わせの作成について説明します。

▼ CLI を使用してコンソールのエスケープ文字を変更する

/SP/console escapechars プロパティを使用すると、システムコンソールセッションから ILOM に切り替えるエスケープ文字シーケンスを変更することができます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/console escapechars=xx
```

シーケンスは、2 文字に制限されています。デフォルトの値は、#. (ハッシュとピリオド) です。シーケンスはカスタマイズできます。

xx は、任意のプリント可能な文字です。

注 - エスケープ文字の変更は、現在アクティブなコンソールセッションでは有効になりません。

構成ポリシーの設定の変更

この節では、ILOM を使用する構成システムポリシーの管理について説明します。

- 「CLI を使用してユーザーデータベースのバックアップを指定する」 (P.24)
- 「CLI を使用してホストの電源投入ポリシーを指定する」 (P.25)
- 「CLI を使用して電源投入の遅延を使用不可または再度使用可能にする」 (P.26)
- 「ウェブインターフェースを使用して構成ポリシーの設定を管理する」 (P.26)

▼ CLI を使用してユーザーデータベースのバックアップを指定する

/SP/policy BACKUP_USER_DATA プロパティを使用すると、ILOM 上のローカルユーザーデータベース(ユーザー、パスワード、およびアクセス権情報など)をバックアップするかどうかを指定できます。このプロパティが `enabled` に設定されている場合は、このデータはシステムの取り外し可能なシステム構成カード (SCC PROM) にバックアップされます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/policy BACKUP_USER_DATA=value
```

value は、次のいずれかの値です。

- `enabled` - ユーザーデータベースを SCC にバックアップします。これはデフォルト値です。
- `disabled` - バックアップしません。
- たとえば、ILOM 上のローカルユーザーデータベースをバックアップするには、次のように入力します。

```
-> set /SP/policy BACKUP_USER_DATA=enabled
```

▼ CLI を使用してホストの電源投入ポリシーを指定する

/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE プロパティを使用すると、予期しない電源異常のあとのサーバの動作を制御することができます。外部電源が回復すると、ILOM サービスプロセッサは自動的に動作を開始します。通常は、ILOM を使用して電源を入れないかぎり、ホストの電源は入りません。

ILOM は、サーバの現在の電源状態を非揮発性の記憶領域に記録します。HOST_LAST_POWER_STATE ポリシーが有効な場合、ILOM はホストを以前の電源状態に回復することができます。このポリシーは、電源障害発生時、またはサーバを別の場所に物理的に移動する場合に役立ちます。

たとえば、ホストサーバの動作中に電源が遮断された場合、/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE プロパティが disabled に設定されていると、ホストサーバは電源の回復後も停止したままになります。/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE プロパティが enabled に設定されていると、電源の回復時にホストサーバは再起動します。

1. -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE=enabled
```

このプロパティの値は、次のいずれかに設定できます。

- enabled - 電源の回復時に、サーバは電源切断前の状態に戻ります。
- disabled - 電源が供給されても、サーバは停止したままです (デフォルト)。

HOST_LAST_POWER_STATE を有効にする場合は、/SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY も構成するようにしてください。詳細は、「[CLI を使用して電源投入の遅延を使用不可または再度使用可能にする](#)」(P.26) を参照してください。

/SP/policy HOST_AUTO_POWER_ON を使用すると、サービスプロセッサが起動されたときに、ホストの電源が自動的に入ります。このポリシーが enabled に設定されていると、サービスプロセッサは HOST_LAST_POWER_STATE を disabled に設定します。

2. -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/policy HOST_AUTO_POWER_ON=enabled
```

このプロパティの値は、次のいずれかに設定できます。

- enabled - 電源が供給されると、SP の起動時にホストの電源が自動的に入ります。
- disabled - 電源が供給されても、ホストは停止したままです (デフォルト)。

▼ CLI を使用して電源投入の遅延を使用不可または再度使用可能にする

/SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY プロパティを使用すると、電源が自動的に入る前にサーバを短時間待機させることができます。遅延は、1～5秒のランダムな間隔です。サーバの電源投入を遅延させると、主電源に対する電流サージを最小限に抑えることができます。この電源投入の遅延は、電源異常後にラック内の複数のサーバの電源を入れる場合に重要です。

このプロパティは、/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE が enabled に設定されている場合にのみ有効です。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

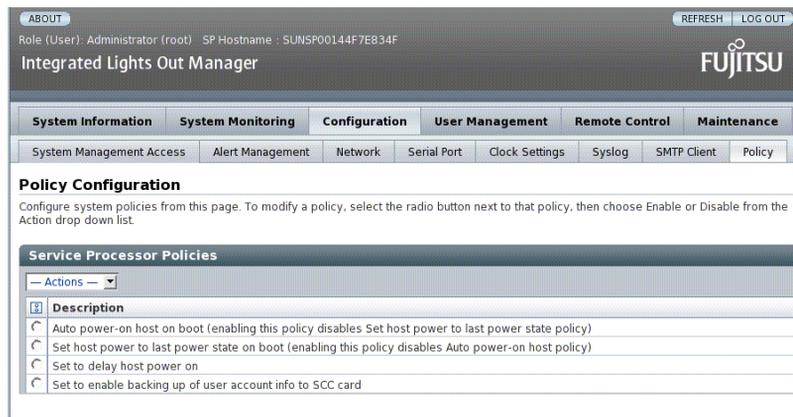
```
-> set /SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY=value
```

value には、次の値を設定できます。

- enabled
- disabled (デフォルト)

▼ ウェブインターフェースを使用して構成ポリシーの設定を管理する

1. ILOM ウェブインターフェースに管理者 (root) としてログインし、ウェブインターフェースを表示します。
2. 「Configuration (設定)」 --> 「Policy」 を選択します。



表示される「Policy Configuration」ページ。

3. 変更するポリシーの「Policy」ラジオボタンをクリックします。
4. 「Actions」の値を選択して、選択した処理（「Enabled」または「Disabled」）を適用します。

電源管理メトリックスの表示

この節では、ILOM を使用してサーバの電源メトリックスを表示する方法について説明します。

▼ CLI を使用して電源管理プロパティを表示する

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> show /SP/powermgmt
```

次に例を示します。

```
-> show /SP/powermgmt

/SP/powermgmt
Targets:

Properties:
  actual_power = 534
  permitted_power = 2626
  available_power = 2626
  control = local
  policy = performance
  regulated_budget = (none)
  elastic_budget = (none)

Commands:
  cd
  set
  show
```

各表記の意味は次のとおりです。

- `actual_power` は、システムのすべての電源装置で消費される入力電力をワット (W) 単位で表示します。

- `available_power` は、システムコンポーネントが使用できる入力電力量をワット (W) 単位で表示します。
- `permitted_power` は、予想される最大消費電力をワット (W) 単位で表示します。
- `control` オプションは、現在このプラットフォームではサポートされていません。
- `policy` オプションは、現在このプラットフォームではサポートされていません。
- `regulated_budget` オプションは、現在このプラットフォームではサポートされていません。
- `elastic_budget` オプションは、現在このプラットフォームではサポートされていません。

▼ システムの総消費電力を表示する

`/SYS/VPS` の値は、次の値と同じです。
`/SP/powermgmt actual_power`

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> show /SYS/VPS
```

次に例を示します。

```
-> show /SYS/VPS

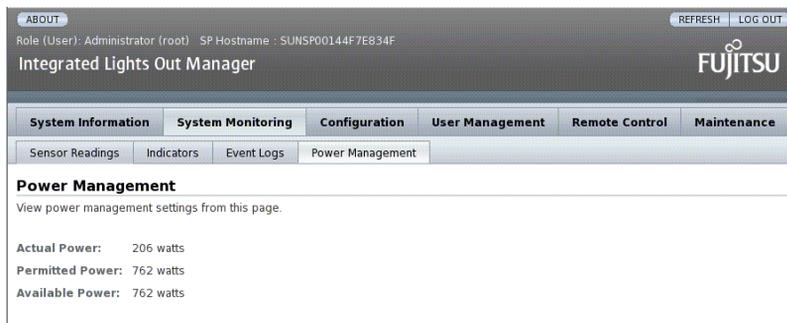
/SYS/VPS
Targets:

Properties:
  type = Power Unit
  class = Threshold Sensor
  value = 528.031 Watts
  upper_nonrecov_threshold = N/A
  upper_critical_threshold = N/A
  upper_noncritical_threshold = N/A
  lower_noncritical_threshold = N/A
  lower_critical_threshold = N/A
  lower_nonrecov_threshold = N/A

Commands:
  cd
  show
```

▼ ウェブインターフェースを使用して電源管理プロパティを表示する

1. ILOM ウェブインターフェースに管理者 (root) としてログインし、ウェブインターフェースを表示します。
2. 「System Monitoring」->「Power Management」を選択します。



表示される「Power Management」ページ。

3. 実際の消費電力（「Actual Power」）を確認します。
4. 許容される消費電力（「Permitted Power」）を確認します。
5. 使用できる電力（「Available Power」）を確認します。

ネットワークアクセスの管理

この節では、ILOM を使用して SP へのネットワークアクセスを管理する方法について説明します。

- 「CLI を使用して SP へのネットワークアクセスを使用不可または再度使用可能にする」(P.29)
- 「DHCP サーバの IP アドレスを表示する」(P.30)

▼ CLI を使用して SP へのネットワークアクセスを使用不可または再度使用可能にする

/SP/network state プロパティを使用すると、サービスプロセッサのネットワークインターフェースを使用可能または使用不可にすることができます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/network state=value
```

value には、次の値を設定できます。

- enabled (デフォルト)
- disabled

▼ DHCP サーバの IP アドレスを表示する

サービスプロセッサによって要求された動的 IP アドレスを提供した DHCP サーバの IP アドレスを表示するには、`dhcp_server_ip` プロパティを参照します。

- `dhcp_server_ip` プロパティを確認するには、`show /SP/network` を入力します。

次に例を示します。

```
-> show /SP/network

/SP/network /SP/network
Targets:

Properties:
  commitpending = (Cannot show property)
  dhcp_server_ip = 10.8.31.5
  ipaddress = 10.8.31.188
  ipdiscovery = dhcp
  ipgateway = 10.8.31.248
  ipnetmask = 255.255.252.0
  macaddress = 00:14:4F:7E:83:4F
  pendingipaddress = 10.8.31.188
  pendingipdiscovery = dhcp
  pendingipgateway = 10.8.31.248
  pendingipnetmask = 255.255.252.0
  state = enabled

Commands:
  cd
  set
  show
```

SSH サーバの設定の管理

- 「CLI を使用して SSH 鍵のタイプを変更する」 (P.31)
- 「CLI を使用して新しい SSH 鍵セットを生成する」 (P.31)
- 「CLI を使用して SSH サーバを再起動する」 (P.31)
- 「CLI を使用して SSH サービスを使用可能または使用不可にする」 (P.32)
- 「ウェブインターフェースを使用して SSH サーバの設定を管理する」 (P.32)

▼ CLI を使用して SSH 鍵のタイプを変更する

set /SP/services/ssh generate_new_key_type コマンドを使用すると、使用しているサーバで生成された Secure Shell (SSH) ホスト鍵のタイプを変更できます。タイプの変更後、set /SP/services/ssh generate_new_key_action コマンドを使用して、新しいタイプの新しい鍵セットを生成する必要があります。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/ssh generate_new_key_type=value
```

value には、rsa または dsa を指定できます。

▼ CLI を使用して新しい SSH 鍵セットを生成する

set /SP/services/ssh generate_new_key_action コマンドを使用すると、新しい Secure Shell (SSH) ホスト鍵のセットを生成できます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/ssh generate_new_key_action=true
```

▼ CLI を使用して SSH サーバを再起動する

set /SP/services/ssh generate_new_key_action コマンドを使用して新しいホスト鍵を生成したあとで、set /SP/services/ssh restart_sshd_action コマンドを使用すると SSH サーバを再起動できます。この操作によって、メモリー内にあるサーバの専用データ構造に鍵がふたたび読み込まれます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/ssh restart_sshd_action=true
```

▼ CLI を使用して SSH サービスを使用可能または使用不可にする

set コマンドで /SP/services/ssh state プロパティを使用すると、SSH サービスを使用可能または使用不可にすることができます。SSH サービスが使用不可になっている場合は、シリアル管理 (SER MGT) ポートまたは ILOM ウェブインターフェースを介してふたたび使用可能にすることができます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/ssh state=value
```

value は、次のいずれかの値です。

- enabled (デフォルト)
- disabled

▼ ウェブインターフェースを使用して SSH サーバの設定を管理する

1. ILOM ウェブインターフェースに管理者 (root) としてログインし、ウェブインターフェースを表示します。
2. 「Configuration (設定)」 -> 「SSH Server Settings」を選択します。

ABOUT REFRESH LOG OUT
 Role (User): Administrator (root) SP Hostname : SUNSP00144F7E834F
Integrated Lights Out Manager FUJITSU

System Information System Monitoring Configuration User Management Remote Control Maintenance

System Management Access Alert Management Network Serial Port Clock Settings Syslog SMTP Client Policy

Web Server SNMP SSL Certificate **SSH Server**

SSH Server Settings

Configure Secure Shell server access and key generation. Newly generated keys are not used until the SSH server is restarted. When the SSH server is restarted or disabled, any CLI sessions running over SSH will be immediately terminated.

SSH Server:

RSA Key:

RSA Fingerprint: f6.da:50:cc:a1:fe:5b:7a:13:b4:ca:da:0d:56:45:bb

RSA Key Length: 1024 bits

RSA Public Key: AAAAB3NzaC1yc2EAAAABIwAAAIEA+9gpL1U3qZg+Jk19dLXL
 kc:eJ1fcYs:Hrml6Iq8pgXV7kIUk1hGka3GnRyDd04HPUULf
 DEEB8:PL4TjOCoh1LBB87e71qnd01e4pF70jja121m7v:PY
 +1L4W/Hw1Wsqf0m+K04Gp17aY12H2e0vP311R3Z0eV12HAI
 /u9EEp8=

DSA Key:

DSA Fingerprint: 4c:83:87:22:ca:9f:78:e3:2e:c5:01:ea:ef:1f:2f:47

DSA Key Length: 1024 bits

DSA Public Key: AAAAB3NzaC1kc3IAAACBAUqu'w'ntfWrygbEAD0Z/5P5aRc
 Nn5jLh90cYCCFJanchj54cVQSP113kCh2qLD0zIK14hCTcJ0
 9L5+qgHn63cFPU+CWec3n3n0vG11ZkzccvC97qT3oWDXVn
 Ryd0V7fHfht:1h39e9231p+eSf8l0p0y0d4GR1121hU101x
 AAAAPQD+zJkHh-V5H2Hh-Jq99S:e1XVGL8eAA1AHU7Oy7qf:1
 30dLChEgFDvGbeV8L7ec9jin3aHqgHTOGhzD5J3Thr0vIP70g
 HHP'AlEvv:1E92aJf85a3Cmmn35a4AD38PwRcFAh1PvSH9Py
 ZoXTP0n1ERFhL4kE8h0LkKsQpDTUT6L0xL8s+cpHwGCC0J
 LwHFenVTDkg0vzv:QAAAIAQV11LanQus7E28%6onvH5eAr6
 8OCFOm2aeLan1q1b2hgF130H3c50Hd91n4159JZndTQJ70G3
 1nu0H128ooLUPKwhjF+qgP7Ea+vv:R1J378n3s8885h0vH
 13/P3j3/sSHfrcdqjyKLL1Lkpt1GB8n+HL1DgTfU1LndkP0
 sw==

表示される「SSH Server Settings」ページ。

3. 「SSH Server」プルダウンメニューから次の処理を選択します。

- SSH サーバを使用可能にする
- SSH サーバを使用不可にする
- SSH サーバを再起動する

4. 「Generate RSA Key」または「Generate DSA Key」をクリックして、新しい鍵のタイプと新しい鍵を生成します。

新しい鍵を生成した場合は、新しい鍵を有効にするために SSH サーバを再起動する必要があります。

注 - SSH サーバを再起動または使用不可にすると、SSH 上で実行している CLI セッションは即時に終了します。

第 4 章

仮想キースイッチの設定の管理

この章では、デバイスの管理に役立つ、SPARC Enterprise T5440 の仮想キースイッチの使用法について説明します。

- 「CLI を使用して仮想キースイッチを制御する」 (P.35)
- 「ウェブインターフェースを使用して仮想キースイッチを制御する」 (P.36)

▼ CLI を使用して仮想キースイッチを制御する

`/SYS setkeyswitch_state` プロパティを使用すると、仮想キースイッチの位置を制御できます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SYS keyswitch_state=value
```

value は、次のいずれかの値です。

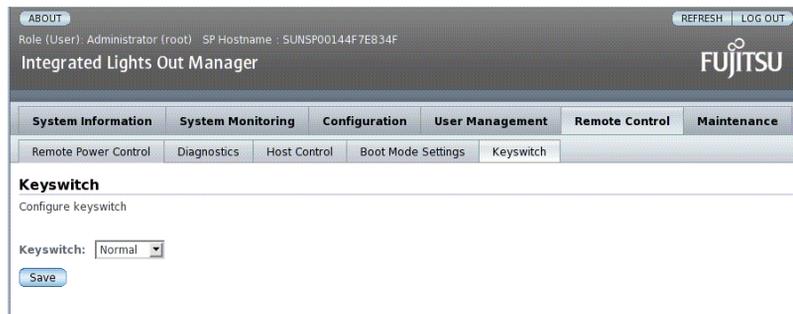
- `normal` - システムは、システム自体の電源を入れて、起動処理を開始できます (デフォルト)。
- `standby` - ホストの電源を切断します。システムは、システム自体の電源を入れることができません。
- `diag` - システムは、診断プロパティの事前設定値 (`/HOST/diag level=max`、`/HOST/diag mode=max`、`/HOST/diag verbosity=max`) を使用してシステム自体の電源を入れ、全体の障害カバレッジを表示することができます。このオプションは、設定した診断プロパティの値よりも優先されます。

- locked - システムは、システム自体の電源を入れることができますが、フラッシュデバイスの更新、または /HOST send_break_action の設定は許可されません。

▼ ウェブインターフェースを使用して仮想キースイッチを制御する

ウェブインターフェースを使用して、システムの仮想キースイッチの位置を制御できます。

1. ILOM ウェブインターフェースに管理者 (root) としてログインし、ウェブインターフェースを表示します。
2. 「Remote Control (リモートコントロール)」 -> 「Keyswitch」を選択します。



表示される「Keyswitch」ページ。

3. 「Keyswitch」の状態の値を選択します。
4. 「Save」をクリックします。

第 5 章

IPMI センサーのリファレンス

このサーバには、多くの IPMI 準拠のセンサーおよびインジケータが装備されています。センサーは、電圧、温度範囲、およびコンポーネントの取り付けと取り外しが検出されたことを測定します。発光ダイオード (LED) などのインジケータは、保守が必要なときなど、サーバの重要な状態を通知します。

この付録は、次の節で構成されています。

- 「SPARC Enterprise T5440 サーバのセンサー」 (P.38)
- 「SPARC Enterprise T5440 サーバのインジケータ」 (P.39)

SPARC Enterprise T5440 サーバのセンサー

表 5-1 温度センサー

バス	説明
/SYS/MB/T_*	マザーボード
/SYS/MB/DVRM_*/T_*	マザーボードの電圧調整器
/SYS/MB/CPUn/T_*	CPU ボード (0 ~ 3)
/SYS/MB/CPUn/DVRM_*/T_*	CPU ボード (0 ~ 3) の電圧調整器
/SYS/MB/MEMn/DVRM_*/T_*	メモリーボード (0 ~ 3) の電圧調整器

表 5-2 電圧センサー

バス	説明
/SYS/MB/V_*	マザーボード
/SYS/MB/DVRM_*/V_*	マザーボードの電圧調整器
/SYS/MB/CPUn/V_*	CPU ボード (0 ~ 3)
/SYS/MB/CPUn/DVRM_*/V_*	CPU ボード (0 ~ 3) の電圧調整器
/SYS/MB/MEMn/DVRM_*/V_*	メモリーボード (0 ~ 3) の電圧調整器
/SYS/MB/SP/V_*	サービスプロセッサ

表 5-3 負荷 (電流) センサー

バス	説明
/SYS/PSn/I_*	電源装置 (0 ~ 3)
/SYS/MB/CPUn/DVRM_*/I_*	CPU ボード (0 ~ 3) の電圧調整器

表 5-4 電源装置の状態センサー

バス	説明
/SYS/PSn/*_POK	電源装置 (0 ~ 3) の電源 OK
/SYS/PSn/*_FAULT	電源装置 (0 ~ 3) の障害

表 5-5 ファン回転速度計センサー

パス	説明
/SYS/MB/FTn/TACH	ファン回転速度計 (0 ~ 3)

SPARC Enterprise T5440 サーバのインジケータ

表 5-6 SPARC Enterprise T5440 サーバのインジケータ

名前	パス	説明
システムレベルのインジケータ		
LOCATE	/SYS/LOCATE	位置特定インジケータ
ACT	/SYS/ACT	システム電源稼働インジケータ
SERVICE	/SYS/SERVICE	保守インジケータ
各コンポーネントのインジケータ		
PS_FAULT	/SYS/PS_FAULT	電源装置障害インジケータ
TEMP_FAULT	/SYS/TEMP_FAULT	温度障害インジケータ
FAN_FAULT	/SYS/FAN_FAULT	ファン障害インジケータ
HDDn/FAULT	/SYS/HDDn/FAULT	ハードディスク (0 ~ 3) の障害インジケータ
HDDn/OK2RM	/SYS/HDDn/OK2RM	ハードディスク (0 ~ 3) の取り外し可能インジケータ
FTn/FAULT	/SYS/MB/FTn/FAULT	ファンモジュールの障害インジケータ
CPUn/FAULT	/SYS/MB/CPUn/FAULT	CPU ボードの障害インジケータ

表 5-6 SPARC Enterprise T5440 サーバのインジケータ (続き) (続き)

名前	パス	説明
MEM n /FAULT	/SYS/MB/MEM n /FAULT	メモリーボードの障害インジケータ
/CPU n /CMP n /BR n /CH n /D0	/SYS/MB/CPU n /CMP n /BR n /CH n /D0	CPU ボードの DIMM 障害インジケータ
/MEM n /CMP n /BR n /CH n /D n	/SYS/MB/MEM n /CMP n /BR n /CH n /D n	メモリーボードの DIMM 障害インジケータ

第 6 章

ALOM CMT 互換シェル

ILOM では、互換シェルを使用して ALOM CMT コマンド行インターフェースの一部の機能をサポートしています。ILOM と ALOM CMT には大きな違いがあります。この付録では、それらの違いについて説明します。この付録は、次の節で構成されています。

- 「ILOM ネットワーク構成プロパティの確定」 (P.41)
- 「ALOM CMT 互換シェルを作成する」 (P.42)
- 「ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較」 (P.44)
- 「ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較」 (P.44)

ILOM ネットワーク構成プロパティの確定

一部の ALOM CMT 変数 (ネットワーク構成変数、シリアルポート構成変数など) の値を変更すると、システムコントローラをリセットして変更を有効にする必要がありました。これに比べて、ILOM では、対応するプロパティの値を変更したあとでサービスプロセッサをリセットする必要はありません。ILOM の場合、プロパティの値を変更してから SP をリセットすると、新しいプロパティの設定が失われます。

代わりに、ネットワーク構成プロパティを変更してから、ALOM 互換 CLI の場合は `setsc netsc_commit in the ALOM compatibility CLI` を、ILOM CLI の場合は `set /SP/network commitpending` を使用して、変更を確定します。シリアルポート構成プロパティを変更するには、最初に目的のプロパティを設定してから、ALOM 互換 CLI の `setsc ser_commit` か、ILOM CLI の `set /SP/serial/external commitpending` を使用して変更を確定します。

たとえば、ALOM 互換 CLI を使用して静的 IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
sc> setsc netsc_ipaddr xxx.xxx.xxx.xxx
sc> setsc netsc_commit true
```

ILOM CLI を使用して同じプロパティを設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/network pendingipaddress=xxx.xxx.xxx.xxx
Set 'pendingipaddress' to 'xxx.xxx.xxx.xxx'
-> set /SP/network commitpending=true
Set 'commitpending' to 'true'
->
```

つまり、変更を有効にするには、その変更を確定する必要があります。

表 6-1 ALOM CMT の commit 変数と対応する ILOM プロパティ

ALOM CMT 変数	対応する ILOM プロパティ
netsc_commit	/SP/network commitpending
ser_commit	/SP/serial/external commitpending

▼ ALOM CMT 互換シェルを作成する

デフォルトでは、サーバは ILOM シェルで操作するように設定されています。サーバの管理に ALOM CMT コマンドと類似するコマンドを使用することが望ましい場合は、ALOM 互換シェルを作成できます。

1. ユーザー名 root を使用してサービスプロセッサにログオンします。

電源を入れると、SP が起動して ILOM ログインプロンプトが表示されます。出荷時のデフォルトのパスワードは、changeme です。

```
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX login: root
Password:
Waiting for daemons to initialize...

Daemons ready

Integrated Lights Out Manager

Version 2.0.0.0
```

```
Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.  
Use is subject to license terms.
```

```
Warning: password is set to factory default.
```

2. admin という名前のユーザーを作成し、admin アカウントの役割を Administrator に設定してから、CLI モードを alom に設定します。

```
-> create /SP/users/admin  
Creating user...  
Enter new password: *****  
Enter new password again: *****  
Created /SP/users/admin  
  
-> set /SP/users/admin role=Administrator  
Set 'role' to 'Administrator'  
  
->set /SP/users/admin cli_mode=alom  
Set 'cli_mode' to 'alom'
```

注 - 例の中のアスタリスクは、パスワードの入力時には表示されません。

create および set コマンドは 1 つの行にまとめることができます。

```
-> create /SP/users/admin role=Administrator cli_mode=alom  
Creating user...  
Enter new password: *****  
Enter new password again: *****  
Created /SP/users/admin
```

3. admin アカウントの作成が完了したら、root アカウントをログアウトします。

```
-> exit
```

4. ILOM ログインプロンプトから ALOM CLI シェル (sc> プロンプトで示される) にログインします。

```
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX login: admin
Password:
Waiting for daemons to initialize...

Daemons ready

Integrated Lights Out Manager

Version 2.0.0.0

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.

sc>
```

ALOM CMT 互換シェルでは、一部例外はありますが、ALOM CMT コマンドと類似するコマンドを使用できます。ALOM CMT 互換シェルは ILOM インターフェースであることを覚えておいてください。ILOM CLI と ALOM CMT 互換 CLI の比較については、「[ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較](#)」(P.44) で説明します。

ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較

次の表に、ALOM CMT のコマンドセットとデフォルトの ILOM CLI コマンドセットにおける、コマンドごとの比較を示します。次の表には、サポートされている ALOM CMT コマンドオプションのみが記載されています。対応する ILOM プロパティが存在しない ALOM CMT コマンド行引数がある場合、それらの ALOM CMT 引数は省略されています。ALOM 互換シェルのコマンドセットでは、ALOM CMT でサポートされているコマンドおよび引数と非常によく似た同等のコマンドおよび引数が提供されています。

注 – ALOM CMT 情報コマンドを表示すると、デフォルトでは、その出力が簡潔形式に制限されていますが、コマンドに `-v` フラグを指定することによってより詳細な出力が提供されます。ILOM の `show` コマンドには、簡潔出力形式はありません。常に、詳細出力が提供されます。

表 6-2 ALOM CMT シェルの構成コマンド

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
<code>password</code>	現在のユーザーのログインパスワードを変更します。	<code>set /SP/users/username password</code>
<code>restartssh</code>	<code>ssh-keygen</code> コマンドによって生成された新しいホスト鍵が再ロードされるように、SSH サーバを再起動します。	<code>set /SP/services/ssh restart_sshd_action=true</code>
<code>setdate [[mmdd]HHMM mmddHHMM[cc]yy][.SS]</code>	ALOM CMT の日付および時刻を設定します。	<code>set /SP/clock datetime=value</code>
<code>setdefaults</code>	すべての ALOM CMT 構成パラメータをデフォルト値にリセットします。-a オプションを指定すると、ユーザー情報が出荷時のデフォルト (1 つの admin アカウントのみ) にリセットされます。	<code>set /SP reset_to_defaults=configuration</code>
<code>setdefaults</code>	すべての ALOM CMT 構成パラメータをデフォルト値にリセットします。-a オプションを指定すると、ユーザー情報が出荷時のデフォルト (1 つの admin アカウントのみ) にリセットされます。	<code>set /SP reset_to_defaults=all</code>
<code>setkeyswitch [normal stby diag locked]</code>	仮想キースイッチの状態を設定します。仮想キースイッチをスタンバイ (stby) に設定すると、サーバの電源が切断されます。ホストサーバの電源を切る前に、ALOM CMT によって電源切断の確認が求められます。	<code>set /SYS keyswitch_state=value</code>
<code>setsc [param] [value]</code>	指定した ALOM CMT パラメータに割り当てる値を設定します。	<code>set target property=value</code>
<code>setupsc</code>	対話型の構成スクリプトを実行します。このスクリプトでは、ALOM CMT 構成変数が設定されます。	ILOM での対応なし
<code>showplatform [-v]</code>	ホストシステムのハードウェア構成に関する情報と、そのハードウェアがサービスを提供しているかどうかを表示します。-v オプションを指定すると、表示されているコンポーネントに関する詳細情報が表示されます。	<code>show /HOST</code>
<code>showfru</code>	ホストサーバ内の現場交換可能ユニット (FRU) に関する情報を表示します。	ILOM での対応なし

表 6-2 ALOM CMT シェルの構成コマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
showusers	ALOM CMT に現在ログインしているユーザーのリストを表示します。このコマンドの表示書式は、UNIX コマンド <code>who</code> の表示書式と類似しています。 -g オプションを指定すると、 <i>lines</i> で指定した行数を表示するたびに表示を一時停止します。	show /SP/sessions
showusers -g <i>lines</i>		ILOM での対応なし
showhost	ホスト側のコンポーネントのバージョン情報を表示します。	show /HOST
showhost <i>version</i>	<i>version</i> オプションを指定すると、オプションを指定しない <code>showhost</code> コマンドと同じ情報が表示されます。	
showkeyswitch	仮想キースイッチの状態を表示します。	show /SYS keyswitch_state
showsc [<i>param</i>]	現在の非揮発性ランダムアクセスメモリー (NVRAM) の構成パラメータを表示します。	show target property
showdate	ALOM CMT の日付を表示します。 ALOM CMT の時刻は、現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されず、Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。	show /SP/clock datetime
ssh-keygen -l	Secure Shell (SSH) ホスト鍵を生成し、ホスト鍵フィンガープリントを SC に表示します。	show /SP/services/ssh/keys rsa dsa
ssh-keygen -r		set /SP/services/ssh generate_new_key_action= true
ssh-keygen -t {rsa dsa}		set /SP/services/ssh generate_new_key_type= [rsa dsa]
usershow [<i>username</i>]	すべてのユーザーアカウント、アクセス権レベル、およびパスワード割り当ての有無を示すリストを表示します。	show /SP/users
useradd <i>username</i>	ALOM CMT にユーザーアカウントを追加します。	create /SP/users/ <i>username</i>

表 6-2 ALOM CMT シェルの構成コマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
<code>userdel username</code>	ALOM CMT からユーザーアカウントを削除します。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできません。	<code>delete /SP/users/username</code>
<code>userdel -y username</code>		<code>delete -script /SP/users/username</code>
<code>userpassword [username]</code>	ユーザーのパスワードを設定または変更します。	<code>set /SP/users/username password</code>
<code>userperm [username] [c] [u] [a] [r]</code>	ユーザーアカウントのアクセス権レベルを設定します。	<code>set /SP/users/username role=permissions</code> (ここで、 <i>permissions</i> は Administrator または Operator)

表 6-3 ALOM CMT シェルのログコマンド

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
<code>showlogs</code> <code>[-b lines -e lines -v]</code> <code>[-g lines] [-p logtype [r p]]</code>	ALOM CMT RAM イベントログに記録されたすべてのイベントの履歴、または持続ログに記録されたメジャーイベントおよびクリティカルイベントを表示します。-p オプションを指定すると、RAM イベントログ (<i>logtype r</i>) のエントリのみを表示するか、持続イベントログ (<i>logtype p</i>) のエントリのみを表示するかを選択できます。	<code>show /SP/logs/event/list</code> ILOM での対応なし
<code>consolehistory</code> <code>[-b lines -e lines -v]</code> <code>[-g lines] [boot run]</code>	ホストサーバコンソールの出力バッファを表示します。	<code>show /SP/console/history</code>

表 6-4 ALOM CMT シェルの状態および制御コマンド

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
showenvironment	ホストサーバの環境状態を表示します。この情報には、システムの温度、電源装置の状態、フロントパネルの LED の状態、ハードディスクドライブの状態、ファンの状態、電圧と電流のセンサーの状態があります。	show -o table -level all /SYS
showpower [-v]	ホストサーバの電源メトリックスを表示します。	show /SP/powermgmt
shownetwork [-v]	現在のネットワーク構成情報を表示します。-v オプションを指定すると、DHCP サーバの情報などのネットワークに関する追加情報が表示されます。	show /SP/network
console	ホストシステムのコンソールに接続します。	start /SP/console
console -f	-f オプションを指定すると、コンソールの書き込みロックが強制的に別のユーザーに移動します。	ILOM での対応なし
break -c	ホストサーバ上で動作している Solaris OS ソフトウェアを中断し、Solaris ソフトウェアが起動されたモードに応じて、OpenBoot PROM または kmdb に制御を移します。	set /HOST send_break_action=break
break -D		set /HOST send_break_action=dumpcore
bootmode [normal] [reset_nvram] [config= <i>configname</i>] [bootscript = <i>string</i>]	ホストサーバの OpenBoot PROM ファームウェアの起動方法を制御します。	set /HOST/bootmode <i>property=value</i> (ここで、 <i>property</i> は state、config、または script)
flashupdate -s <i>IPaddr</i> -f <i>pathname</i> [-v]	ホストファームウェアおよび ALOM CMT ファームウェアの両方のシステムファームウェアをダウンロードおよび更新します。ILOM では、 <i>ipaddr</i> は TFTP サーバである必要があります。DHCP が使用されている場合、 <i>ipaddr</i> は TFTP ホストの名前に置き換えることができます。	load -source tftp:// <i>ipaddr/pathname</i>

表 6-4 ALOM CMT シェルの状態および制御コマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
reset [-c]	システムの正常なリセットを試みます。失敗した場合は、システムを強制的にリセットします。	reset /SYS
reset [-y] [-c]		reset -script /SYS
reset -f	システムを強制的にリセットします。	reset -f /SYS
reset -d	制御ドメインの正常なリセットを試みます。失敗した場合は、制御ドメインを強制的にリセットします。	reset /HOST/domain/control
reset [-d] [-f]	制御ドメインを強制的にリセットします。	reset - f /HOST/domain/control
reset [-d] [-n]	制御ドメインをリセットしたとき、このオプションでは自動的に起動が行われることがあります (auto-boot オプションが指定されていない場合のデフォルトの動作)。	set /HOST/domain/control auto-boot=disable reset /HOST/domain/control
reset [-d] [-f] [-n]	制御ドメインをリセットしたとき、自動的な起動は行われず、OpenBoot の ok プロンプトの状態のままになります。このオプションは、すべての再起動変数を上書きして、ホストのリセット後に制御ドメインを OpenBoot ok プロンプトで停止させます。 auto-boot? オプションは変更されないため、auto-boot? オプションが true に設定されていると、それ以降の reset コマンドではホストが自動的に再起動されます。	set /HOST/domain/control auto-boot=disable reset -f /HOST/domain/control
powercycle [-y] [-f]	poweroff のあとに poweron を実行します。-f オプションを指定すると、poweroff が強制的に即時に実行されます。-f オプションを指定しない場合は、正常な停止が試行されます。	stop /SYS start /SYS
powercycle -y		stop -script /SYS start -script /SYS
powercycle -f		stop -force /SYS start -force /SYS

表 6-4 ALOM CMT シェルの状態および制御コマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
poweroff	ホストサーバの主電源を切ります。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。ALOM CMT は、正常なサーバの停止を試行します。-f オプションを指定すると、即時停止が強制的に行われます。	stop /SYS
poweroff -y		stop -script /SYS
poweroff -f		stop -force /SYS
poweron	ホストサーバまたは FRU の主電源を入れます。	start /SYS
setlocator [on/off]	サーバのロケータ LED をオンまたはオフに切り替えます。	set /SYS/LOCATE value= <i>value</i>
showfaults [-v]	現在検出されているシステム障害を表示します。	show /SP/faultmgmt
clearfault <i>UUID</i>	手動でシステム障害を修復します。	set /SYS/component clear_fault_action=true
showlocator	ロケータ LED の現在の状態がオンまたはオフのいずれであるかを表示します。	show /SYS/LOCATE

表 6-5 ALOM CMT シェルの FRU コマンド

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
setfru -c <i>data</i>	-c オプションを使用すると、システムのすべての FRU にインベントリコードなどの情報を格納できます。	set /SYS customer_frudata= <i>data</i>
showfru -g lines [-s -d] [<i>FRU</i>]	ホストサーバ内の FRU に関する情報を表示します。	ILOM での対応なし
removefru [-y] [<i>FRU</i>]	電源装置などの FRU を取り外す準備をします。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	set /SYS/PS0 prepare_to_remove_action= true

表 6-6 ALOM CMT シェルの自動システム回復 (ASR) コマンド

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
enablecomponent <i>asr-key</i>	asr-db ブラックリストからコンポーネントを削除します。	set /SYS/component component_state=enabled
disablecomponent <i>asr-key</i>	asr-db ブラックリストにコンポーネントを追加します。	set /SYS/component component_state=disabled
showcomponent <i>asr-key</i>	システムコンポーネントおよびそのテスト状態 (ASR 状態) を表示します。	show /SYS/component component_state
clearasrdb	asr-db ブラックリストからすべてのエントリを削除します。	ILOM での対応なし

表 6-7 ALOM CMT シェルのその他のコマンド

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
help [<i>command</i>]	すべての ALOM CMT コマンドのリスト、およびその構文と機能の概要を表示します。オプションとしてコマンド名を指定すると、そのコマンドのヘルプを表示できます。	help
resetsc	ALOM CMT を再起動します。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	reset /SP
resetsc -y		reset -script /SP
userclimode	シェルのタイプを <i>shelltype</i> に設定します。ここで、 <i>shelltype</i> は default または alom です。	set /SP/users/username cli_mode= <i>shelltype</i>
logout	ALOM CMT シェルセッションからログアウトします。	exit
setsc sys_ioreconfigure <i>value</i>	ioreconfiguration パラメータを <i>value</i> に設定します。ここで、 <i>value</i> は true、false、または next-boot です。	set /HOST ioreconfigure= <i>value</i>

第 7 章

ALOM 互換シェルで使用できるイベントメッセージ

この節では、イベントメッセージに関する情報を示します。この付録は、次の節で構成されています。

- 「イベントメッセージの概要」 (P.53)
- 「イベントの重要度レベル」 (P.54)
- 「サービスプロセッサの使用状況イベントメッセージ」 (P.55)
- 「環境監視イベントメッセージ」 (P.58)
- 「ホスト監視イベントメッセージ」 (P.62)

イベントメッセージの概要

サービスプロセッサのファームウェア (ALOM CMT では SC または「システムコントローラ」と呼ばれる) は、次の複数の宛先にイベントメッセージを送信します。

- メッセージは、`sc_clieventlevel` 変数の設定に基づいて、ログインしているすべてのユーザーに送信されます。
- メッセージは、イベントログに記録されます。記録されたメッセージは、ALOM 互換シェルの `showlogs` コマンドを使用して参照します。
- イベントログに記録されたメッセージは、イベントの重要度によって識別できます。イベントの重要度がメジャーまたはクリティカルである場合、ALOM 互換シェルの `showlogs -p r` コマンドを使用して、これらのイベントのメッセージを表示することができます。イベントログ内のすべてのメッセージを表示するには、ALOM 互換シェルの `showlogs -p p` コマンドを使用します。
- メッセージは、`mgt_mailalert` 変数の設定に基づいて、電子メールメッセージとして送信されます。個々の電子メールアドレスは、さまざまな重要度のメッセージを受信するように構成できます。

- イベントが障害を示している場合は、ALOM 互換シェルの `showfaults` コマンドの出力にそのイベントメッセージが表示されます。
- メッセージは、`sys_eventlevel` 変数の設定に基づいて、管理対象システムのオペレーティングシステムに送信され、Solaris の `syslog` 機能に記録されます。すべてのバージョンの Solaris オペレーティングシステムで、この機能がサポートされるとはかぎりません。

イベントの重要度レベル

各イベントには、重要度レベルと対応する数値が割り当てられています。これらのレベルと数値は、次のとおりです。

- クリティカル (1)
- メジャー (2)
- マイナー (3)

ALOM 互換シェルの構成パラメータは、重要度レベルを使用して、表示するイベントメッセージを判断します。

サービスプロセッサの使用状況イベントメッセージ

下記の表に、サービスプロセッサ (システムコントローラ) の使用状況イベントメッセージを示します。

表 7-1 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	Host has been powered off	ユーザーが <code>poweroff</code> コマンドを入力した場合などで、SC がホストの電源切断を要求すると常に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。
クリティカル	Host has been powered off	ユーザーが <code>poweroff -f</code> コマンドを入力した場合などで、SC がホストの即時電源切断を要求すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。
クリティカル	Host has been powered off	ホストの電源が切断されると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。また、ホストが自身をリセットした場合にも、通常、このイベントが送信されます。
メッセージ	Host has been powered on	<code>sc_powerstatememory</code> か、ユーザーによる <code>poweron</code> コマンドの入力のいずれかにより、SC がホストの電源投入を要求すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。
クリティカル	Host has been reset	ユーザーによる <code>reset</code> コマンドの入力などで、SC がホストのリセットを要求すると、ALOM 互換シェルはこれらのメッセージのいずれかを送信します。
クリティカル	Host has been powered off	
クリティカル	Host has been powered on	
クリティカル	Host System has Reset.	ホストがリセットされたことを SC が検出すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。これらのシステムでは、リセットが <code>powercycle</code> として実装されているため、このメッセージの直後に <code>Host has been powered off</code> イベントメッセージが続きます。

表 7-1 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
マイ ナー	"root : Set : object = /clock/datetime : value = "datetime": success	SC の日付または時刻を変更するために、ユーザーが <code>setdate</code> コマンドを入力すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。
メジ ャー	Upgrade succeeded	<code>flashupdate</code> コマンドの処理を行ったあとに SC ファームウェアが再読み込みされると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。
マイ ナー	"root : Set : object = /HOST/bootmode/state: value = "bootmode-value": success	ユーザーが <code>bootmode normal</code> コマンドを使用して、起動モードを <code>normal</code> に変更すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。
マイ ナー	"root : Set : object = /HOST/bootmode/state: value = "reset_nvram": success	ユーザーが <code>bootmode</code> コマンドを使用して起動モードを <code>reset_nvram</code> に変更すると、ALOM 互換シェルはこのコマンドを送信します。
マイ ナー	"root : Set : object = /HOST/bootmode/script: value = "text": success	ユーザーが起動モードの起動スクリプトを変更すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。 <code>text</code> は、ユーザーが指定した起動スクリプトのテキストです。
マイ ナー	Keyswitch position has been changed to <i>keyswitch_position</i> .	ユーザーが <code>setkeyswitch</code> コマンドを使用してキースイッチの位置を変更すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。 <code>keyswitch_position</code> は新しいキースイッチの位置です。
マイ ナー	"user" : open session : object = /session/type: value = www/shell: success	ユーザーがログインすると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。 <code>user</code> はログインしたユーザーの名前です。
マイ ナー	object = /session/type: value = www/shell: success	ユーザーがログアウトすると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。 <code>user</code> はログアウトしたユーザーの名前です。
マイ ナー	"root : Set: object = /HOST/send_break_action: value = dumpcore : success	ALOM 互換シェルユーザーが、 <code>break -D</code> コマンドを入力して、ホストにコアダンプ要求を送信すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。

表 7-1 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	Host Watchdog timeout.	ホストのウォッチドッグがタイムアウトし、sys_autorestart 変数が none に設定されていると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。SC が、修正措置を実行することはありません。
クリティカル	SP Request to Dump core Host due to Watchdog.	ホストのウォッチドッグがタイムアウトし、sys_autorestart 変数が dumpcore に設定されていると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。SC は、エラーの状態情報を取得するために、ホストのコアダンプの実行を試みます。すべてのバージョンの OS で、コアダンプ機能がサポートされるとはかぎりません。
クリティカル	SP Request to Reset Host due to Watchdog.	ホストのウォッチドッグがタイムアウトし、sys_autorestart 変数が reset に設定されていると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。その後、SC はホストのリセットを試みます。

環境監視イベントメッセージ

次の表に、サービスプロセッサ (システムコントローラ) の環境監視イベントメッセージを示します。

表 7-2 環境監視イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	SP detected fault at time <i>time</i> .Chassis cover removed.	シャーシカバーが取り外されている場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。プラットフォームハードウェアは、予防措置として、管理対象システムの電源をただちに切ります。シャーシカバーが取り外されている間、poweron コマンドが使用されないように、このメッセージと同時に、イベントメッセージ System poweron is disabled が発生するはずです。
メジャー	System poweron is disabled.	ユーザーの poweron コマンド、またはフロントパネルの電源ボタンのいずれかによるシステムの電源投入を SC が拒否すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。メッセージ Chassis cover removed で示されるイベントなど、これと同時に発生するイベントによって、SC の電源投入が使用不可になります。そのほかに、デバイス障害またはファンの冷却の不足などが考えられます。
メジャー	System poweron is enabled.	前述の System poweron is disabled メッセージによって示される、電源投入が使用不可になったことの原因である状況が修正されると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。たとえば、シャーシカバーを取り付け直した場合、またはシステムの冷却に必要な十分なファンを取り付けた場合などです。

表 7-2 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メ ジャー	SP detected fault at time <i>time</i> "device 'fault' at PSO asserted"	故障または障害が検出されると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。障害は優先順位が低い方の状態で、システムが縮退モードで動作していることを示しています。故障は優先順位が高い方の状態で、FRU に障害が発生し、交換する必要があることを示しています。 <i>device</i> は障害が発生したデバイスのタイプで、SYS_FAN、PSU、CURRENT_SENSOR、DOC、FPGA などです。この障害イベントメッセージは、ALOM 互換シェルの showfaults コマンドの出力に表示されます。
マイ ナー	SP detected fault cleared at <i>time time</i> current fault at <i>device</i> asserted.	以前の障害または故障が回復または修復されたことを示す場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。フィールドの <i>time</i> および <i>device</i> は、障害または故障に関する以前のイベントで示された値と同じです。
メ ジャー	SP detected fault at time <i>time</i> "device 'fault' at PSO asserted"	故障または障害が検出されると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。障害は優先順位が低い方の状態で、システムが縮退モードで動作していることを示しています。故障は優先順位が高い方の状態で、FRU に障害が発生し、交換する必要があることを示しています。 <i>device</i> は障害が発生したデバイスのタイプで、SYS_FAN、PSU、CURRENT_SENSOR、DOC、FPGA などです。この障害イベントメッセージは、ALOM 互換シェルの showfaults コマンドの出力に表示されます。
マイ ナー	SP detected fault cleared at <i>time time</i> current fault at <i>device</i> asserted.	以前の障害または故障が回復または修復されたことを示す場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。フィールドの <i>time</i> および <i>device</i> は、障害または故障に関する以前のイベントで示された値と同じです。

表 7-2 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	<i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded low warning threshold.	アナログ測定センサーが指定されたしきい値を超えた場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。メッセージには、超過したしきい値の種類が含まれています。
クリティカル	<i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded low critical shutdown threshold.	<i>Device_type</i> は障害が発生したデバイスのタイプで、VOLTAGE_SENSOR、TEMP_SENSOR などです。 <i>location</i> は、エラー状況になったデバイスの場所と名前です。デバイスの場所と名前は、ALOM 互換シェルの <code>showenvironment</code> コマンドの出力と一致します。
メジャー	<i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded high warning threshold	TEMP_SENSOR イベントの場合、このメッセージは、室内の温度、サーバに出入りする通気の遮断など、サーバの外側で問題が発生していることを示します。
クリティカル	<i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded high soft shutdown threshold	VOLTAGE_SENSOR イベントの場合、このメッセージは、プラットフォームハードウェア、または場合によっては取り付けられているアドオンカードで問題が発生していることを示します。
クリティカル	<i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded high hard shutdown threshold	これらの障害イベントメッセージは、ALOM 互換シェルの <code>showfaults</code> コマンドの出力に表示されます。
マイナー	<i>Device_type</i> at <i>location</i> is within normal range.	アナログ測定センサーが、現在は、警告または障害となるしきい値を超えていない場合、ALOM 互換シェルにより、このメッセージが送信されます。このメッセージは、センサーの読み取り値が故障パラメータの境界範囲内まで十分に回復した場合に送信されます。このメッセージは、ALOM 互換シェルの <code>showenvironment</code> コマンドの現在の出力と一致しない場合があります。
クリティカル	Critical temperature value: host should be shut down	システムの冷却の維持に必要なファンが十分に動作していないために、SC が停止を開始したことを示す場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。システムの冷却を維持するために必要なファンの数は、プラットフォームによって異なります。詳細は、使用しているプラットフォームのドキュメントを参照してください。

表 7-2 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	Host system failed to power off.	SC がシステムの電源を切ることができないことを示す場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。このメッセージは、プラットフォームハードウェアまたは SC ハードウェアのいずれかに問題があることを示しています。プラットフォームハードウェアの損傷を防ぐため、システムのプラグを手で外してください。 この障害イベントメッセージは、ALOM 互換シェルの showfaults コマンドの出力に表示されます。
	FRU_type at location has been removed. FRU_type at location has been inserted.	FRU の取り外しまたは挿入を示す場合に、ALOM 互換シェルはこれらのメッセージを送信します。フィールド FRU_type は、SYS_FAN、APSU、HDD などの FRU のタイプを示します。フィールド location は、showenvironment コマンドの出力に表示されるものと同じ、FRU の場所と名前を示します。
メジャー	Input power unavailable for PSU at location.	電源装置に入力電力が供給されていないことを示す場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。このメッセージは、通常、電源装置が AC 電源に接続されていないことを示しています。電力が供給されているコンセントに電源コードが接続されている場合、このメッセージは電源装置自体に問題があることを示しています。 この障害イベントメッセージは、ALOM 互換シェルの showfaults コマンドの出力に表示されます。

ホスト監視イベントメッセージ

次の表に、サービスプロセッサ (システムコントローラ) のホスト監視イベントメッセージを示します。

表 7-3 ホスト監視イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	SP detected fault at time <i>time</i> <i>component</i> disabled	POST での障害の検出によって自動的にコンポーネントが使用不可になった場合、またはユーザーの <code>disablecomponent</code> コマンドの入力によってコンポーネントが使用不可になった場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。 <i>component</i> は使用不可になったコンポーネントで、プラットフォームの <code>showcomponent</code> コマンドで表示されます。 この障害イベントメッセージは、ALOM 互換シェルの <code>showfaults</code> コマンドの出力に表示されます。
マイナー	SP detected fault cleared at <i>component</i> reenabled	コンポーネントが使用可能になると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。コンポーネントは、ユーザーが <code>enablecomponent</code> コマンドを入力するか、またはコンポーネント自体が DIMM などの FRU で、その FRU を交換することによって使用可能にできます。 <i>component</i> は、プラットフォーム <code>showcomponent</code> コマンドの出力に表示される、コンポーネントの名前です。
メジャー	Host detected fault, MSGID: <i>SUNW-MSG-ID</i> ..	Solaris PSH ソフトウェアが障害を診断する場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。障害の <i>SUNW-MSG-ID</i> は ASCII 識別子で、 http://www.sun.com/msg で入力すると、障害の性質や修復手順に関する詳細を調べることができます。 この障害イベントメッセージは、ALOM 互換シェルの <code>showfaults</code> コマンドの出力に表示されます。

表 7-3 ホスト監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	<i>Location</i> has been replaced; faults cleared.	ホストで検出された障害を含む FRU を交換したあとで、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。 <i>Location</i> は、交換された FRU の場所と名前です。SC の起動時、または FRU を交換してシャーシカバーを閉じたあとに、このイベントを受信する可能性があります。
メジャー	Existing faults detected in <i>FRU_PROM</i> at <i>location</i> .	新しい FRU で、その FRU PROM に以前の障害が記録されていることを SC が検出したことを示す場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。FRU または SC カードのいずれかを、あるシステムから別のシステムに移動させた場合に、このイベントが発生する可能性があります。 <i>location</i> は、MB/SEEPROM など、交換した FRU の SEEPROM の名前です。 最新の既存の障害は、FRU PROM から <i>showfaults</i> リストにインポートされません。 <i>showfaults</i> リストの項目は、インポートされた障害で、このメッセージではありません。

索引

A

ALOM CMT コマンド、ILOM コマンドとの比較,
6-44

ALOM CMT 互換シェル
作成, 6-42

H

/HOST autorestart プロパティ, 2-10
/HOST autorunonerror プロパティ, 2-10
/HOST ioreconfiguration プロパティ, 2-17
/HOST macaddress プロパティ, 2-9
/HOST send_break_action プロパティ, 2-15
/HOST status プロパティ, 2-15
/HOST/bootmode config プロパティ, 2-5
/HOST/bootmode expires プロパティ, 2-7
/HOST/bootmode script プロパティ, 2-6
/HOST/bootmode state プロパティ, 2-6
/HOST/diag level プロパティ, 2-13
/HOST/diag mode プロパティ, 2-12
/HOST/diag trigger プロパティ, 2-12
/HOST/diag verbosity プロパティ, 2-13

I

ILOM プロパティ

/HOST autorestart, 2-10
/HOST autorunonerror, 2-10
/HOST macaddress, 2-9
/HOST send_break_action, 2-15
/HOST status, 2-15, 2-17

/HOST/bootmode config, 2-5
/HOST/bootmode expires, 2-7
/HOST/bootmode script, 2-6
/HOST/bootmode state, 2-6
/HOST/diag level, 2-13
/HOST/diag mode, 2-12
/HOST/diag trigger, 2-12
/HOST/diag verbosity, 2-13
/SP customer_fruedata, 3-20
/SP reset_to_defaults, 3-22
/SP system_identifier, 3-21
/SP/console escapechars, 3-23
/SP/policy BACKUP_USER_DATA, 3-24
/SP/policy HOST_AUTO_POWER_ON, 3-25
/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE, 3-25, 3-26
/SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY, 3-26
/SP/powermgmt, 3-27
/SP/services/ssh
 generate_new_key_action, 3-31
/SP/services/ssh
 generate_new_key_type, 3-31
/SP/services/ssh
 restart_sshd_action, 3-31, 3-32
/SP/services/ssh state, 3-32
/SYS keyswitch_state, 4-35
/SYS/VPS, 3-28

IPMI インジケータ, 5-39

O

OpenBoot のバージョン、表示

CLI を使用, 2-9

Web インタフェースを使用, 2-10

P

POST のバージョン、表示

CLI を使用, 2-9

Web インタフェースを使用, 2-10

S

/SP customer_fruedata プロパティ, 3-20

/SP reset_to_defaults プロパティ, 3-22

/SP system_identifier プロパティ, 3-21

/SP/console escapechars プロパティ, 3-23

/SP/policy BACKUP_USER_DATA プロパティ,
3-24

/SP/policy HOST_AUTO_POWER_ON プロパ
ティ, 3-25

/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE プロパ
ティ, 3-25

/SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY プロパ
ティ, 3-26

/SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY プロパ
ティ
, 3-26

/SP/powermgmt プロパティ, 3-27

/SP/services/ssh
generate_new_key_action プロパティ, 3-
31

/SP/services/ssh generate_new_key_type
プロパティ, 3-31

/SP/services/ssh restart_sshd_action プ
ロパティ, 3-31, 3-32

/SP/services/ssh state プロパティ, 3-32

/SYS keyswitch_state プロパティ, 4-35

/SYS/VPS プロパティ, 3-28

う

ウォッチドッグタイマー, 2-10

き

起動モード

管理スクリプト, 2-6

概要, 2-5

構成の管理, 2-5

リセットの管理, 2-6

さ

サーバ

プラットフォーム情報, 2-15, 2-17

し

出荷時のデフォルト, 3-22

診断

CLI での管理

冗長性の選択, 2-13

トリガーの条件の指定, 2-12

モードの変更, 2-12

レベルの指定, 2-13

Web インタフェースでの管理, 2-14

た

タイマー、ウォッチドッグ, 2-10

て

デフォルト、リセット, 3-22

ふ

プラットフォーム、表示, 2-15, 2-17

プロパティ

システムユーザー, 2-15

バックアップデータ, 3-24

ほ

ホストの状態情報、表示

CLI を使用, 2-15

ゆ

ユーザーデータのバックアップ, 3-24

り

リモートコントロールの設定

CLI での変更, 2-4

Web インタフェースでの変更, 2-7

FUJITSU